

ピアエデュケーションを用いた性教育に対する高校生の受け止め方

安達久美子, 高田昌代, 西澤由季^{1*}, 川崎由岐子^{2*}

浦滝恵津子^{2*}, 福垣恵子^{2*}, 井口剛^{1*}

神戸市看護大学, ^{1*}兵庫県立柏原高等学校, ^{2*}丹波県民局柏原健康福祉事務所

キーワード: 性教育, ピアエデュケーション, ピアカウンセリング, 思春期

The Perception of Peer Sexual Education Among High School Students.

Kumiko ADACHI, Masayo TAKADA, Yuki NISHIZAWA^{1*}, Yukiko KAWASAKI^{2*},
Etsuko URATAKI^{2*}, Keiko FUKUGAKI^{2*}, Tsuyoshi IGUCHI^{2*}

Kobe City College of Nursing, ^{1*}Hyogo Prefectural Kaibara Senior High School

^{2*}Tamba District Administration Office Kibara Health Welfare Office

Key words : Sex education, Peer-education, Peer -counseling, adolescent

I. はじめに

近年, 思春期における性交経験率の上昇や低年齢化(東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会, 2002)などといった性行動の活発化により, 20歳未満における性感染症(以下STI)の増加(国立感染研究所, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003)や, 望まない妊娠(戸田, 2004)といった問題が深刻化している。

思春期のこのような問題へ取り組むためには, 従来型の一方的な知識の提供では十分でないことが認識され, ピアエデュケーションとピアカウンセリングが新しい性教育法として注目されている(高村, 2005)。思春期にある若者を対象とした同年輩の仲間同士の相談活動であるピアカウンセリングは, 欧米では, 既に1970年代から行われ一般化している(松本, 1999)。本邦においては, 松本がこのピアカウンセリングを日本に紹介し, 1991年に自治医科大学が主体となり活動が始まった(松本, 1999)。現在, 思春期を対象としたピアカウンセリング及びピアエデュケーションについては, 様々な手法で実践されている(秋野, 2005; 前田, 2005; 水谷, 2005)。その中でも, 高村ら(2004)は, ピアカウンセリングの方法, 内容, 評価など多角的な視点から調査研究を行い, 思春期ピアカウンセリ

ングとして, ピアカウンセラーの養成及びピアカウンセリングの実践におけるプログラムを開発した。このプログラムでは, 性とは人の生と切り離すことができないものであり, 性=生であるという考え方にたち, 性に関する知識の提供だけではなく, 性=生に関する自己決定能力を高め, 自分の問題を自分で解決していくための支援が重要視されているのが特徴である。現在, この高村らのピアカウンセラー養成プログラムを修了したピアカウンセラーによるピアカウンセリングが全国的に実践されている(高村, 2005)。

このような思春期ピアカウンセリングが実践されるなか, ピアカウンセリングやピアエデュケーションの効果について調査(藏本, 2003; 中村, 2004)され, 主に量的なデータを元にピアカウンセリング・ピアエデュケーションの評価が行われている。しかし, これらの調査では, 受講者の性別や年齢などからの詳細な分析は行われていない。思春期においては, 性別や年齢によって性に関する経験や, とらえ方も異なっており(東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会, 2002), 背景別に分析を行うことで, より対象のニーズが浮き彫りにされると考える。また, 受講生一人一人の受け止め方を明らかにすることも必要である。そこで, 本研究では, ピアエデュケーションを受講した

高校生の受け止め方と効果について明らかにし、対象者のニーズに即したピアエデュケーションのあり方を考えることを目的とした。

II. 研究方法

1. 用語の定義

本研究における「ピアカウンセリング」とは、高村ら(2004)が実践している、思春期ピアカウンセリングの理論とスキルを用いた仲間相談のことをいう。また、「ピアエデュケーション」とは、高村ら(2004)が開発した思春期ピアカウンセラー養成セミナーを受講し、ピアカウンセラーとして認定を受けた大学生が、思春期ピアカウンセリングの手法を用いて高校生を対象に性=生に関する仲間教育を行うことをいう。

2. 調査対象

ピアエデュケーションを受講したA県下のB高校の生徒838名を対象とした。

3. 方法

1) ピアエデュケーションの実施

実施日及び時間：平成17年7月13日、75分間

実施場所：B高校体育館

実施ピアカウンセラー：大学生10名

実施内容：表1参照

2) ピアエデュケーション受講後に、各自の教室にて無記名による質問紙調査を実施した。調査は、「ピアエデュケーションに参加して楽しかったか」、「内容はわかりやすかったか」、「自分の人生や性について真剣に考える機会になった」などについての5段階評定法と感想(自由記載)の2つの形式で行った。

3) 分析方法

5段階評定調査結果については、統計ソフトSPSS11.0J for Windowsを使用した。学年別・性別及び肯定群と否定群の比較はカイ2乗検定を用いた。有意水準は5%未満とした。自由記載は内容を熟読し、今回のピアエデュケーションを受講した上での思いや

表1. ピアエデュケーションの内容

テーマ:	かけがえのない自分～You need us. We need you.～
目的:	①自己の性=生について考え、性の自己決定の大切さを理解する。 ②性=生に対する考え方には多様性があり、自分の意見だけでなく他者の意見も尊重することの大切さを理解する。
1. ねらい	自分の過去～未来 えりの年表 自分の人生をみつめ、人生における性=生の位置づけをする。
方法・内容:	パワーポイントを使用し、ピアカウンセラーが自分の過去、未来の年表を紹介しながら人生の中での性の位置づけ(男女交際、結婚、妊娠など)を明示していく。
2. ねらい	杏生くんと彩那ちゃんの愛の12段階 人間の求愛の12段階を理解し、自分の性のとらえ方について考えるとともに、相手の意志を尊重し、相手の思いを大切にすることの重要性を理解する。
方法・内容:	人間の求愛の12段階について説明し、愛の表現法は様々であること、求愛の各段階においては、自己決定と相手の思いを尊重することが大切であることをパワーポイントを活用しながら劇を行い表現していく。
3. ねらい	愛の満ちた教室で 性行動に関して、ピアプレッシャーに振り回されるのではなく、自己決定の大切さ及び、性に関する様々な考え方があることを理解する。
方法・内容:	パワーポイントに台詞を提示しながら、高校生6名とピアカウンセラー1名の性に関する各々の考え方、とらえ方(性交に対して肯定的な意見、否定的な意見、これまで考えたことがないという意見、男性からの意見、女性からの意見など)を朗読劇で提示する。

感想について表現されている部分を抽出し、類似した意味内容をグループ化（サブカテゴリー化）し表題をつけ、さらにサブカテゴリーをカテゴリーに分類し、表題をつけた。内容の抽出、分類化、カテゴリーの表題化にあたっては、研究者による偏りを少なくし、より客観的なデータ分析とするため、研究者3名で実施した。

4) 倫理的配慮

アンケートは無記名とした。また、教室における回収のため、提出の有無が明らかにされやすいことから、記入に同意しないものについては、無記入のまま提出してもらうこととした。回収は担任教諭が行った。記入回収後は養護教諭が一括して保管した。結果の公表にあたっては、匿名性の保持を厳守することを書面にて生徒に説明し、同意を得た。

III. 結果

1. 回収結果

回収数 838 名（回収率 100%）であり、そのうちの有効回答数 779 名（有効回答率 92.9%）であった。学年別では、1 年生 253 名、2 年生 245 名、3 年生 281 名であった。男女別では、男子 385 名、女子 394 名であった。

2. 5 段階評定法の結果（表 2-1, 2-2）

1) ピアカウンセラーのプレゼンテーション法について

「ピアカウンセラーの話は聞き取りやすかった」については、「そう思う」、「ややそう思う」は 74.8%であった。「スライドはみやすかった」については、「そう思う」、「ややそう思う」は 45.6%であった。「聞き取りやすさ」、「見やすさ」とともに、学年、男女による差はなかった。

2) ピアエデュケーションの内容について

「ピアカウンセラーの話はわかりやすかった」については、「そう思う」、「ややそう思う」は 70.6%であった。学年、男女による差はなかった。

3) 参加の評価について

「参加して楽しかった」については、「そう思う」、「ややそう思う」53.0%、「どちらともいえない」35.3%、「あまりそう思わない」、「そうは思わない」11.7%であった。学年別にみると楽しかったと評価した生徒が 2・3 年生では過半数を超えたのに対して、1 年生

は過半数を下回り有意の差がみられた ($p<0.05$)。男女差はなかった。

4) ピアエデュケーションの効果について

「自分の人生や性について真剣に考える機会になった」については、「そう思う」、「ややそう思う」57.2%、「どちらともいえない」31.2%、「あまりそう思わない」、「そうは思わない」11.6%であった。考える機会になったと評価した生徒が 2・3 年生では 6 割を超えたのに対して、1 年生は過半数を下回り差があった ($p<0.05$)。男女別では、「そう思う」、「ややそう思う」男子 52.0%、女子 62.4%、「どちらともいえない」男子 34.0%、女子 28.4%、「あまりそう思わない」、「そうは思わない」男子 14.1%、女子 9.2%であり、男女差があった ($p<0.01$)。

「自分の気持ちを見つめ直す機会になった」については、「そう思う」、「ややそう思う」54.7%、「どちらともいえない」33.6%、「あまりそう思わない」、「そうは思わない」11.7%であり、学年による差はなかった。男女別では、「そう思う」、「ややそう思う」男子 48.8%、女子 60.4%、「どちらともいえない」男子 36.4%、女子 31.0%、「あまりそう思わない」、「そうは思わない」男子 14.8%、女子 8.6%であり、男女差があった ($p<0.05$)。

「劇をみてそれぞれにいろいろな考えがあることを受け入れることができた」については、「そう思う」、「ややそう思う」72.7%であった。学年による差はなかった。男女別では、「そう思う」、「ややそう思う」男子 69.1%、女子 76.2%、「どちらともいえない」男子 25.7%、女子 18.5%、「あまりそう思わない」、「そうは思わない」男子 5.2%、女子 5.3%であり男女差があった ($p<0.01$)。

5) ピアカウンセラーについて

「ピアカウンセラーは親しみやすい」については、「そう思う」、「ややそう思う」は 59.8%であり、学年による差はなかった。男女別では、「そう思う」男子 18.2%、女子 25.1%、「ややそう思う」男子 35.3%、女子 40.9%、「どちらともいえない」男子 35.6%、女子 25.6%、「あまりそう思わない」男子 8.3%、女子 6.9%、「そうは思わない」男子 2.6%、女子 1.5%であり、男女差があった ($p<0.01$)。

「ピアカウンセラーと性・生について一緒に話す機会があればいいと思う。」については、「そう思う」、「ややそう思う」46.1%、「どちらともいえない」40.3

%, 「あまりそう思わない」, 「そうは思わない」 13.6% であり, 学年による差はなかった。男女別では, 「そう思う」, 「ややそう思う」 男子 43.3%, 女子 48.7%, 「どちらともいえない」 男子 40.8%, 女子 39.8%, 「あまりそう思わない」, 「そうは思わない」 男子 15.8%, 女子 11.5% であり, 男女差はなかった。

6) ピアエデュケーション肯定群と否定群の比較について

「参加して楽しかった」について, 「そう思う・ややそう思う」と回答した 413 名を肯定群, 「あまりそう思わない・そうは思わない」と回答した 91 名を否定群として両者を比較した。

「自分の人生や性について真剣に考える機会になった」について, 「そう思う」肯定群 110 名 (26.6%), 否定群 2 名 (2.2%), 「ややそう思う」肯定群 203 名 (49.2%), 否定群 16 名 (17.6%), 「どちらともいえない」肯定群 79 名 (19.1%), 否定群 35 名 (38.5%), 「あまりそう思わない」肯定群 12 名 (2.9%), 否定群 24 名 (26.4%), 「そうは思わない」肯定群 9 名 (2.2%), 否定群 14 名 (15.4%) であり, 両群に差があった ($p < 0.001$)。

「自分の気持ちを見つめ直す機会になった」について, 「そう思う」肯定群 108 名 (26.2%), 否定群 3 名 (3.3%), 「ややそう思う」肯定群 193 名 (46.7%), 否定群 15 名 (16.5%), 「どちらともいえない」肯定群 91 名 (22.0%), 否定群 39 名 (42.9%), 「あまりそう思わない」肯定群 10 名 (2.4%), 否定群 17 名 (18.7%), 「そうは思わない」肯定群 11 名 (2.7%), 否定群 17 名 (18.7%) であり, 両群に差があった ($p < 0.001$)。

「劇をみてそれぞれにいろいろな考えがあることを受け入れることができた」について, 「そう思う」肯定群 180 名 (43.6%), 否定群 8 名 (8.8%), 「ややそう思う」肯定群 184 名 (44.6%), 否定群 25 名 (27.5%), 「どちらともいえない」肯定群 44 名 (10.7%), 否定群 38 名 (41.8%), 「あまりそう思わない」肯定群 3 名 (0.7%), 否定群 8 名 (8.8%), 「そうは思わない」肯定群 2 名 (0.5%), 否定群 12 名 (13.2%) であり, 両群に差があった ($p < 0.001$)。

3. 自由記載内容の結果 (表 3)

自由記載の内容を分析した結果, 大きく 6 つのカテゴリーに分類された。結果の記述にあつては, カテゴリーは【】, サブカテゴリーは[], 自由記載の記述内容は「」で示す。

1) 【新しいスタイルの性教育としてのピアエデュケーションについて】

ピアエデュケーションを新しいスタイルの性教育としてとらえており, 4 つのサブカテゴリーで構成された。「今までにないやり方だったので, 生徒みんながとても真剣に聞くことができたのでよかったです」「講演会というといつも堅い雰囲気ですと座っていると足が痛くなったり眠たくなったりしていたけど, 話がしっかり聞けた」とし, [真剣に聴く]ことができたと評価していた。また「僕は性に関する話はいやというほど聞かされてきて, もううんざりと思っていたけど, 今回新しいかたちで僕たちに教えてくれてとても分かりやすかったし, みんな話が上手でよかった」と[わかりやすい]と評価していた。「途中で丹波の黒豆がでてきたからおもしろかった」「今回はみている映像もあり笑いもあったので話がしっかり聞けた」など劇を取り入れたり, 地元になんだマスコットを活用したりした今回のピアエデュケーションを[多彩なプレゼンテーション]であるとしていた。このような新しい形の性教育を生徒たちは, 「今日の講演は, 自分たちのためになる講演だと思った」と[自分たちのためになる]と受け止めていた。

2) 【自分について】

今回の講演によって【自分について】いろいろな側面から記述されており, 5 つのサブカテゴリーで構成された。「これからの人生を考えさせられた, 大学のこと, 10 年後, 20 年後私はどうなってるんだろう～? と思う」「今日まで自分のことについて人生設計とか考えてなくて, 今日の講演を聞いてちゃんと考えなくてはいけないと改めて思いました」というように, 自分の[人生について考える]ことになったとしていた。「自分についてこれまで, 深く考えていなくて, 別になんとも思っていなかったことがすごく残念に思えた, これからは, もう一度自分ということについて考えてみようと思った」という[自分について考える]とした意見もあった。また, 「周りの意見や情報に惑わされるのではなく, 周りの友だちの意見も取り入れて最後には自分の意見を大切にしないと後悔すると思いました」「性とかについてだけやなしに普段の生活でも, 周りに流されずに自分の意志は自分で決めるということを実行せなあかんと思った」という[自分の意見を大切にすること], 「今日の講演を聴いて自分のペースで生きていくのが一番良いというのに気づきました」

表2-1. 5段階評定によるアンケート結果(学年別)

質問項目	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そうは思わない	P値*
1.ピアカウンセラーの話は聞き取りやすかった。						
1年生(n=253)	28.1%	42.3	19.8	7.5	2.4	
2年生(n=245)	39.2	37.1	19.6	3.3	0.8	
3年生(n=281)	37.7	39.9	16.4	5.0	1.1	n.s.
合計(n=779)	35.0	39.8	18.5	5.3	1.4	
2.スライドは見やすかった。						
1年生(n=253)	16.2	32.4	24.9	19.4	7.1	
2年生(n=245)	19.2	33.1	23.3	18.4	6.1	
3年生(n=281)	12.5	24.6	33.1	23.1	6.8	n.s.
合計(n=779)	15.8	29.8	27.3	20.4	6.7	
3.ピアカウンセラーの話はわかりやすかった。						
1年生(n=253)	28.9	38.7	24.1	6.7	1.6	
2年生(n=245)	29.4	46.5	17.6	5.3	1.2	
3年生(n=281)	25.6	43.1	25.3	4.6	1.4	n.s.
合計(n=779)	27.9	42.7	22.5	5.5	1.4	
4.参加して楽しかった。						
1年生(n=253)	12.3	32.4	41.9	7.5	5.9	
2年生(n=245)	18.0	42.4	29.0	6.9	3.7	
3年生(n=281)	14.6	39.5	34.9	8.5	2.5	p<0.05
合計(n=779)	14.9	38.1	35.3	7.7	4.0	
5.自分の人生や性について真剣に考える機会になった。						
1年生(n=253)	12.3	36.8	35.2	11.1	4.7	
2年生(n=245)	16.7	45.3	26.9	7.3	3.7	
3年生(n=281)	18.9	41.6	31.3	5.0	3.2	p<0.05
合計(n=779)	16.0	41.2	31.2	7.7	3.9	
6.自分の気持ちを見つめ直す機会になった。						
1年生(n=253)	14.2	35.2	36.0	9.5	5.1	
2年生(n=245)	15.9	39.2	32.7	7.8	4.5	
3年生(n=281)	19.6	39.5	32.4	4.3	4.3	n.s.
合計(n=779)	16.7	38.0	33.6	7.1	4.6	
7.劇をみてそれぞれにいろいろな考えがあることを受け入れることができた。						
1年生(n=253)	28.5	41.1	24.1	3.2	3.2	
2年生(n=245)	28.6	45.7	20.0	3.7	2.0	
3年生(n=281)	31.0	43.1	22.1	2.1	1.8	n.s.
合計(n=779)	29.4	43.3	22.1	3.0	2.3	
8.ピアカウンセラーは親しみやすい。						
1年生(n=253)	22.1	31.6	34.0	9.9	2.4	
2年生(n=245)	19.6	41.6	29.4	7.3	2.0	
3年生(n=281)	23.1	40.9	28.5	5.7	1.8	n.s.
合計(n=779)	21.7	38.1	30.6	7.6	2.1	
9.ピアカウンセラーと性・生について一緒に話す機会があればいいと思う。						
1年生(n=253)	11.1	28.1	44.3	9.9	6.7	
2年生(n=245)	15.1	33.1	37.6	9.4	4.9	
3年生(n=281)	14.2	36.3	39.1	6.4	3.9	n.s.
合計(n=779)	13.5	32.6	40.3	8.5	5.1	

* χ^2 検定

n.s., non-significant

表2-2. 5段階評定によるアンケート結果(性別)

質問項目	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そうは思わない	P値*
1.ピアカウンセラーの話は聞き取りやすかった。						
男子(n=385)	37.7%	40.5	16.4	4.4	1.0	
女子(n=394)	32.5	39.1	20.6	6.1	1.8	n.s.
合計(n=779)	35.0	39.8	18.5	5.3	1.4	
2.スライドは見やすかった。						
男子(n=385)	16.6	33.5	26.8	17.4	5.7	
女子(n=394)	15.0	26.1	27.9	23.4	7.6	n.s.
合計(n=779)	15.8	29.8	27.3	20.4	6.7	
3.ピアカウンセラーの話はわかりやすかった。						
男子(n=385)	24.4	43.9	23.6	7.0	1.0	
女子(n=394)	31.2	41.6	21.3	4.1	1.8	n.s.
合計(n=779)	27.9	42.7	22.5	5.5	1.4	
4.参加して楽しかった。						
男子(n=385)	15.1	34.8	37.4	7.3	5.5	
女子(n=394)	14.7	41.4	33.2	8.1	2.5	n.s.
合計(n=779)	14.9	38.1	35.3	7.7	4.0	
5.自分の人生や性について真剣に考える機会になった。						
男子(n=385)	15.6	36.4	34.0	8.1	6.0	
女子(n=394)	16.5	45.9	28.4	7.4	1.8	p<0.01
合計(n=779)	16.0	41.2	31.2	7.7	3.9	
6.自分の気持ちを見つめ直す機会になった。						
男子(n=385)	14.0	34.8	36.4	8.8	6.0	
女子(n=394)	19.3	41.1	31.0	5.3	3.3	p<0.05
合計(n=779)	16.7	38.0	33.6	7.1	4.6	
7.劇をみてそれぞれにいろいろな考えがあることを受け入れることができた。						
男子(n=385)	23.4	45.7	25.7	2.6	2.6	
女子(n=394)	35.3	40.9	18.5	3.3	2.0	p<0.01
合計(n=779)	29.4	43.3	22.1	3.0	2.3	
8.ピアカウンセラーは親しみやすい。						
男子(n=385)	18.2	35.3	35.6	8.3	2.6	
女子(n=394)	25.1	40.9	25.6	6.9	1.5	p<0.01
合計(n=779)	21.7	38.1	30.6	7.6	2.1	
9.ピアカウンセラーと性・生について一緒に話す機会があればいいと思う。						
男子(n=385)	11.4	31.9	40.8	9.6	6.2	
女子(n=394)	15.5	33.2	39.8	7.4	4.1	n.s.
合計(n=779)	13.5	32.6	40.3	8.5	5.1	

* χ^2 検定

n.s., non-significant

という[自分は自分でいい]という意見がみられた。さらに「自分の思いや考えを言葉にすることができるように頑張りたい」「性のことは友達には少し聞きにくくて、みんなはどう思っているのかなと少し不安もあったけど、今日の話で自分の思ったようにしないと後悔してしまうから、正直な気持ちを言うべきだと思った」という[自分の思いを伝えること]という意見もみられた。

3) 【性について】

生徒は自分についてと同様に【性について】も自分と向き合い記述しており、3つのサブカテゴリーから構成された。「小学校くらいから、性について学びはしたけど、いまいよいよわからなくて、こんな深く考えたのは初めてやったからよい講演になったと思う、自分の性に対して改めて考えられてよかった」というように[性について考える]という記述があった。また、「性=Sexばかりだと思っていたけれど、今日の講演を聴いて性は生きることなんだと思った」「自分の一番の愛情表現は性行為だと考えておりました、そしてみんなもそうだと考えていましたが、今日の講演を聞いて、やはりもっとちがう愛情表現もあるんだということが分かった」というような[性はセックスだけではない]ことがわかったとの記述もあった。反対に、「未だそのことについて何も考えないのは自分が幼いから、人を好きになる必要性はよくわからない」「なんか恥ずかしい事で頭を下げてしまうときがあった」といった性について考えることが[未だそのときではない]という意見もあった。

4) 【他者とのかかわりについて】

自分のことについて考えると同時に、他者との関わりに関連することがらも記述されており、4つのサブカテゴリーから構成された。「誰かを好きになるということは、同時に相手の気持ちを考えたり、大切にしていくということにつながっていくのだなと思いました」「自分一人ではなく相手も共に生活している人生だから、他の人の思い、気持ちも尊重し、支え合いながら生きていくのが本当に素晴らしいことだと思った、頑張ろ・・・ホンマ頑張ろ」にみられる[相手の気持ちを大切にすること]が記述されていた。また、「性については男の気持ちはわかっているけど、異性の気持ちは今までわかりにくいと思っていたけれど、講義のなかで劇などやってもらい少し理解することができた」という[異性の気持ちを知る]という意見もみられた。

さらに、異性の気持ちを知るだけでなく、「友達の話とかをきいていると、そんなことして何が楽しいやろってずっと思っていました、でも、SEXが愛が深まる手段と考える人もいるんだなと思いました」「性についても、いろんな意見があることがわかった」というように、[いろいろな意見がある]ということを知ったという記述もみられた。また、「友達と話し合っ、いろんな事を聞くことが大切だと思いました、一人で考えるよりみんなで考えた方がたくさんの意見がでるからよいということがわかった」「友達にきいてもらうことで、いろいろな悩みを解決出来るんだなあと思いました」というように[友達と話すこと]についての記述もみられた。

5) 【ピアカウンセラーについて】

【ピアカウンセラーについて】は、2つのサブカテゴリーから構成された。「これまでも、内容としては知っている様なことばかりでした、でも、今までのような年が離れた先生方が話すのとは違って自分たちに近い年齢の方がはなされたのでとても説得力があった」というように[同世代の近い存在]としてとらえていた。また「ピアカウンセラーの方々の頑張りが伝わってきたし、ああいう仕事もいいなあと思いました」「またいつか今度は自分が伝えていけたらいいなあと思いました」といった[モデルとしてのピアカウンセラー]という記述もみられた。

6) 【ピアエデュケーションの否定】

ピアエデュケーションへの否定的な意見もあり、2つのサブカテゴリーから構成された。「性についてということは常日頃から高校生くらいになると話をし、わかっていることだと思った、理解が低いと思った」「内容は教科書にのっている(中略)退屈でおもしろくなかった」といった[既に知っていること]であるという意見、また「他人のことを思う以前に話したりする友達すらいなかった自分にとって聞いてて何の意味があるのだろうと思いました」「今日の講演は有意義ではなかった」にみられるような[自分にとっては意味がない]という意見もあった。

IV. 考 察

1. 新しい手法としてのピアエデュケーションについて
プレゼンテーションの方法、内容のわかりやすさについては、5段階評定の結果7割以上の生徒が肯定的

表 3. 自由記載の内容分析結果

カテゴリー	サブカテゴリー
新しいスタイルの性教育としてのピアエデュケーションについて	真剣に聴く わかりやすい 多彩なプレゼンテーション 自分たちのためになる
自分について	人生について考える 自分について考える 自分の意見を大切にすること 自分は自分でいい 自分の思いを伝えること
性について	性について考える 性はセックスだけでない 未だそのときではない
他者とのかわりについて	相手の気持ちを大切にすること 異性の気持ちを知る いろんな意見がある 友達と話すこと
ピアカウンセラーについて	同年代の近い存在 モデルとしてのピアカウンセラー
ピアエデュケーションの否定	既に知っていること 自分にとって意味がない

な評価をしていた。自由記載においても、これまで彼らが経験してきた性教育よりもわかりやすく、集中して話を聴くことができたとしている。また、その地域に関連したマスコットを作成し、プレゼンテーションに取り入れるという若者ならではのアイデアも高校生の共感を高めていた。さらに、参加して楽しかったとした生徒は過半数を超え、ピアエデュケーションは高校生に肯定的に受け止められたと考えられる。これまでの中学生を対象としたピアエデュケーション受講後の調査(宇野, 2003)でも、仲間からの情報提供を肯定的に受け止めており、ピアエデュケーションが新しい性教育の手法として思春期の若者に受け入れられやすいことがわかった。

2. ピアエデュケーションの効果について

「自分の人生や性について真剣に考える機会になった」、「自分の気持ちを見つめなおす機会になった」と回答した生徒は、両質問ともに過半数を超え、「それぞれいろいろ考え方があることを受け入れることができた」とした生徒は7割を超えた。自由記載では、自分自身のことや性について真剣に考えるきっかけになったとする意見がみられた。特に、これまであまり考えることがなかった性=生について考えていた。これは、思春期におけるアイデンティティの獲得(Erikson, 1950)のためには自己の一貫性と独自性を受容することが必要であり(深谷, 1994)、自分について考えることは必要不可欠であるという面で効果的であった。

また、自分の意見や考えを改めて見つめなおしている様子や、自分自身の思いを相手に伝えることの必要性を理解していた。高校生にとって性の情報取得や性行動に友人が影響する(野々山, 2003)。この友人からの外圧に惑わされることなく、性に対する自己決定をしていくことの大切さを理解することは、安易な性行動を抑制することにつながると考える。さらに、個々の性のとらえ方には違いがあること、特に異性の性に対する思いを理解すること、その上で相手の気持ちを尊重することを理解できた様子が読み取れた。これは、今日問題となっているデイトレイプ(野坂, 2003)の予防への一助となるのではないかと考える。

3. ピアカウンセラーについて

ピアカウンセラーを親しみやすいと回答した生徒は約60%であり、ピア(仲間)としてピアカウンセラーを捉えていることがうかがわれた。このように仲間からメッセージを発信したことが、共感を得たのではないかと考える。また、45%の生徒が、「ピアカウンセラーと性・生について一緒に話す機会があればいいと思う」としており、自由記載の中では、ピアカウンセラーをモデルとしてとらえ、身近な存在として受け入れられていた。これらのことからピアカウンセラーに対して仲間相談者としてのニーズがあることがわかった。欧米では、高校や大学において、ピアカウンセラーは気軽な相談者として活動を行っている(Stephenson, 1998; Yanda, 2000)。本結果からも、このようなピア

カウンセラーのニーズが高い事がわかった。今後は、このニーズに応えるために、ピアカウンセラーの養成を充実させていくことが必要であると考ええる。

4. 学年別、性別によるピアエデュケーションの受け止め方の違いについて

学年によって差がみられた質問項目は、「参加して楽しかった」「自分の人生について真剣に考える機会になった」であり、1年生に比べ2・3年生で肯定的にとらえる生徒が多かった。自由記載の中では、性についてはまだ早いという意見もみられ、今回のピアエデュケーションの内容については、性行動がより活発化する（東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会、2002）上級生により身近な話題であったのではないかと考える。

男女によって差がみられた質問項目は、「自分の人生や性について真剣に考える機会になった」「自分の気持ちを見つめ直す機会になった」「劇をみてそれぞれにいろいろな考えがあることを受け入れることができた」であり、すべての項目で、肯定的に受け入れた生徒が女子に多かった。この理由としては、男子に比べ女子の性交経験率が高いことがこれまでの調査で明らかになっており（東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会、2002;野々山、2003）、男子に比べ女子において性＝生に関する問題がより現実的であることが考えられる。また、今回ピアエデュケーションを担当したピアカウンセラーの多くが女性であったこと、朗読劇の中で女生徒役が多かったことも少なからず影響したことも考えられる。今後は、学年や性差を考慮し、より対象のニーズにあった内容を吟味していくことが必要であると考ええる。

5. ピアエデュケーションへの否定的な受け止めについて

ピアエデュケーションについて肯定群と否定群で差がみられた項目は、「自分の人生や性について真剣に考える機会になった」「自分の気持ちを見つめ直す機会になった」「劇をみてそれぞれにいろいろな考えがあることを受け入れることができた」であり、いずれも否定群において、「あまりそう思わない」、「思わない」とする生徒が多かった。自由記載の中では、性に関する内容やピアエデュケーションについて否定的な意見がみられた。すべての生徒に肯定的に受け入れられることは難しいことであるが、性を否定的に受け止めるのではなく、自分の問題として受け止められるよ

うな内容の工夫も今後さらに検討していく必要があると考える。

V. おわりに

高村（高村、2003）は、従来型の一方的な知識の提供だけでの健康教育・性教育では、行動変容をおこすのは非常に困難であるとし、ピアカウンセリングの手法を用いた性教育の有効性を述べている。本調査においてもピアエデュケーションが高校生にとって受け入れやすく、有効性の高いものであることが示唆された。今後は、長期的な効果など多角的にピアエデュケーションの評価を行い、高校生のニーズにあったプログラムの内容を考えていく必要がある。

参考文献

- 秋野恵美子(2005):地域におけるピアエデュケーションの試み「若者とエイズ in おたる」を実施して, 思春期学, 23(1), 190-192.
- Erikson E.H(1950), 仁科弥生(1977):幼児期と社会 1,2, みすず書房.
- 深谷和子(1994):思春期と学校教育, 思春期の健康科学, 渡邊言夫編, 放送大学教育振興会, 165-172
- 国立感染症研究所(1999, 2000, 2001, 2002, 2003)感染症発症動向調査, 第 3140表 累積報告数・定点当り累積報告数, 年齢階級・疾病・性別(総数).
- 藏本美代子, 平岡敦子, 下見千恵, 他(2003):ピアエデュケーションによる健康講座の実践的検証, 思春期学, 21(3), 302-309.
- 前田ひとみ, 山下友也(2005):思春期ピアカウンセリングの普及に関する研究 ピアカウンセラーのサポートの現状と課題, 日本健康教育学会誌 13, 64-65.
- 松本清一(1999):はじめに, 性の自己決定能力を育てるピアカウンセリング, 小学館, 2-5.
- 水谷聖子, 加藤章子, 大橋裕子, 他(2005): 思春期における性教育の試み(2) 市民講座に設定したピア・サポーターによる生や性の教育, : 日本赤十字豊田看護大学紀要, 1(1), 33-41.
- 中村好一, 小田林宏至, 篠澤悦子, 他(2004):ピアカウンセリングの評価およびその効果的普及に関する研究, 平成 15 年度厚生労働省科学研究補助金(子ども家庭総合研究事業) 報告書, 657-663.

- 野々山久也, 清水美知子, 施利平, 他(2003):青少年の性意識と性行動に関する調査研究報告書, 兵庫県・家庭問題研究, 15-16, 49-62.
- 野坂祐子, 笹川真紀子, 吉田博美, 他(2004):高校生の性暴力被害実態調査, 財団法人女性のためのアジア平和国民基金, 44-55.
- Stephenson, JM., Oakley, A.,Charleston, S.,et al(1998): Behavioural intervention trials for HIV/STD prevention in schools: are they feasible? Sex Transm Infect, 74(6):405-408.
- 高村寿子(2003):ピアカウンセリング手法を用いた性教育の理念と方法, 思春期学, 127-131.
- 高村寿子(2004):ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究, 厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)平成15年度研究報告書.
- 高村寿子(2005):思春期の性の健康を支える ピアカウンセリング・マニュアル, 小学館, 70-145.
- 戸田稔子, 河野美江, 比良静代(2004):若年妊娠の臨床的検討リプロダクティブ・ヘルスの立場から, 思春期学 22(3), 392-397.
- 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会編(2002): 2002年調査児童・生徒の性, 学校図書株式会社, 15-16.41-52.
- 宇野暢恵, 荒木田美香子, 戸川僚子(2005):中学生を対象としてピアエデュケーションによる性教育の有効性の検討 - 9ヶ月後までの追跡調査 -, 思春期学, 23(3), 318-327.

(受付: 2005.11.30; 受理: 2006.1.31)